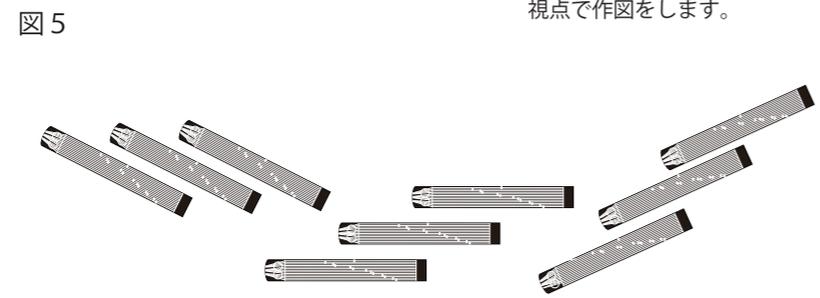
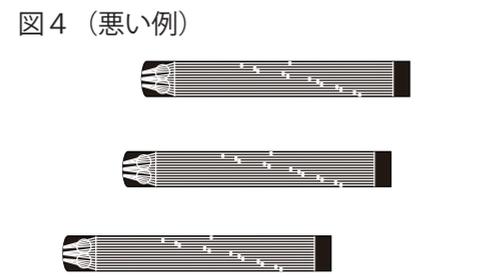
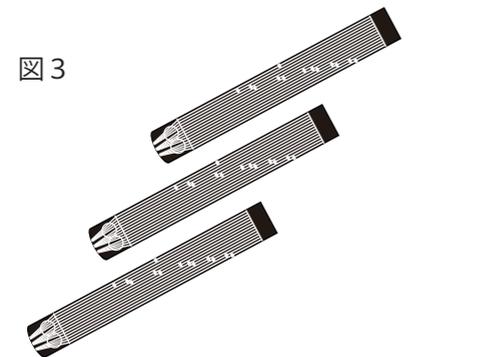
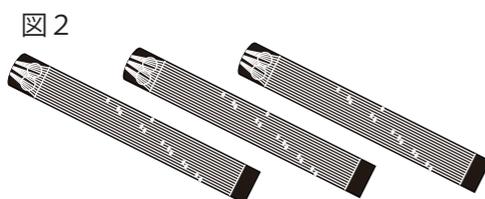
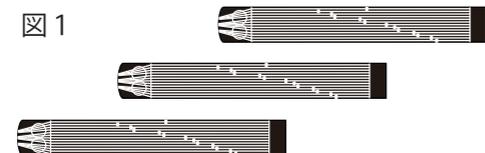


箏のセッティングについての基本的な考え方



まずは左記の図1を参照してほしいのですが、演奏者の主観視点で作図したものです。前の箏の左後ろに次の箏を置いてあります。さらに同じような距離感で左後ろに次の箏を置きました。演奏者が座って演奏に支障がない距離で左後ろに概ね等間隔にずらし箏で平行四辺形を作るイメージをもってください。

図2ですが、その平行四辺形を角度をつけました。演奏者から見ると舞台左側に配置する箏は龍尾を前にずらして角度をつけます。角度をつけても演奏者の左後ろにずらしていきます。尚、演奏者から見て舞台の左側を上手と呼びます。

図3、こちらは演奏者視点で舞台右側ですね。こちらは左側とは逆に龍尾を後ろにずらした形で角度をつけます。演奏者から見て舞台右側は下手と呼びます。

客席から見た場合は舞台の右側が上手、左側が下手となります。右左で呼んでると主観によって逆になりますが、上手と下手はどちらの視点から見ても共通の呼び方になるので便利です。

さてセッティングの話に戻ります。左後ろにどれだけずらすかの距離感は舞台や部屋の大きさにより修正が必要となりますが、1図の形のような平行四辺形を意識してその平行四辺形を回転させるような形で箏をセッティングしてください。

図4は、これは良くある悪い例の図です。左斜め後ろにずれずほぼ真後ろに次の事を置いてしまう形です。面白いことにセッティングについて何も言わないといたいこのように置いてしまう人はとても多いです。後ろに隠れている方が落ち着くのでしょうか…

多人数レッスンなどでセッティングする際は図5のような形がよいかなと思います。誰からも教える先生の顔や手元がなるべく近い位置で見えるのが理想です。演奏者視点でまずは作図をしましたが、右ページからは客席視点で作図をします。

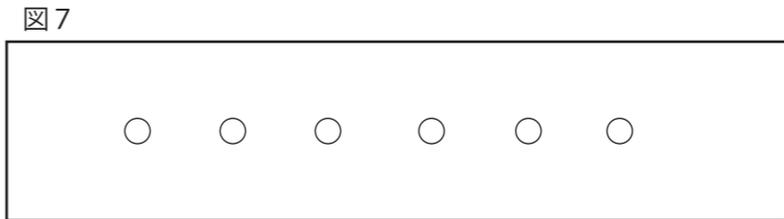
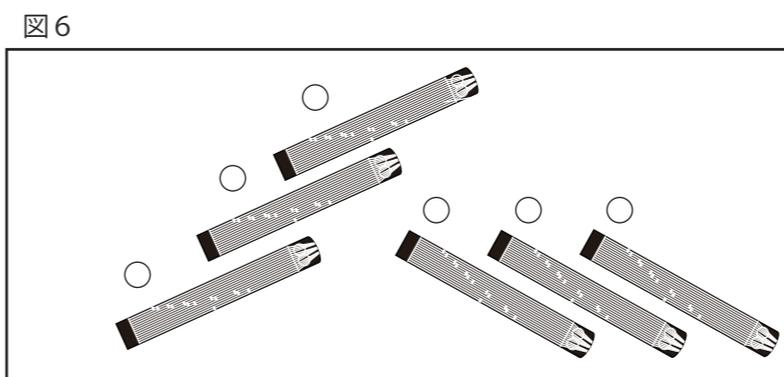


図6は箏二重奏、各パート3名を想定した図です。図に○がついてますがこれが演奏者の頭を想定してます。図7は図6を前から見た視点の図で、演奏者の頭がほぼ等間隔で並んでおります。※適当な作図なので”ほぼ”ということでご容赦ください。箏のセッティングの基本として客席から見た時に演奏者の顔がなるべく等間隔に見えるように箏を置く形もまた重要なポイントとなります。平行四辺形および演奏者が前から見て等間隔、まずはこの2点を意識してセッティングをしてみてください。おまけにいくつかセッティングのパターン図を作りました。パートや演奏者の人数、舞台の大きさに臨機応変に対応する必要がありますが、基本的なポイントとしてこのプリントを参考にいただければ幸いです。

2017年4月19日 沖政一志

